

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／資産複合	
信託期間	1987年11月27日から、原則として無期限です。	
運用方針	日経平均株価（225種）採用の株式とわが国の公社債等を実質的な主要投資対象とし、信託財産の成長と安定した収益の確保をはかることを目的として、運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	ミリオン・インデックスマザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）の受益証券およびわが国の公社債等を主要投資対象とします。
	ミリオン・インデックスマザーファンド	わが国の金融商品取引所上場株式のうち日経平均株価（225種）に採用された銘柄を投資対象とします。
投資制限	当ファンド	マザーファンドの受益証券への投資は、信託財産の純資産総額の70%未満とします。
	ミリオン・インデックスマザーファンド	株式への投資には、制限を設けません。
分配方針	毎年11月26日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として、以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた利子収入と売買益等の全額とします。 委託会社が、基準価額水準・市況動向、残存信託期間等を勘案して、分配金額を決定します。 分配金は、税金を差し引いた後、決算日の基準価額で再投資します。 分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

第31期

運用報告書（全体版）

ミリオン

（従業員積立投資プラン）
bondミックスポートフォリオ

【2018年11月26日決算】

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「ミリオン（従業員積立投資プラン）bondミックスポートフォリオ」は、2018年11月26日に第31期決算を迎えましたので、期中の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社クライアント・サービス部へ
フリーダイヤル ☎0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			日経平均株価(225種)		株式組入 比率	株式先物 比率	債券 組入比率	純資産 総額
	(分配額)	税込み 分配金	期 中 騰落率	(参考指数)	期 中 騰落率				
	円	円	%	円	%	%	%	%	百万円
27期(2014年11月26日)	10,320	5	6.0	17,383.58	12.0	50.5	7.5	33.8	148
28期(2015年11月26日)	11,138	5	8.0	19,944.41	14.7	55.5	3.6	32.0	156
29期(2016年11月28日)	10,582	5	△ 4.9	18,356.89	△ 8.0	49.2	9.5	33.8	148
30期(2017年11月27日)	11,894	5	12.4	22,495.99	22.5	56.3	1.4	29.6	169
31期(2018年11月26日)	11,654	5	△ 2.0	21,812.00	△ 3.0	57.3	0.8	31.2	160

(注)基準価額および分配金(税引前)は1万円当たり、基準価額の騰落率は分配金(税引前)込み。

(注)日経平均株価(225種)は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。

(注)当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、株式組入比率および株式先物比率は実質比率を記載しております。

(注)株式先物比率=買建比率-売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

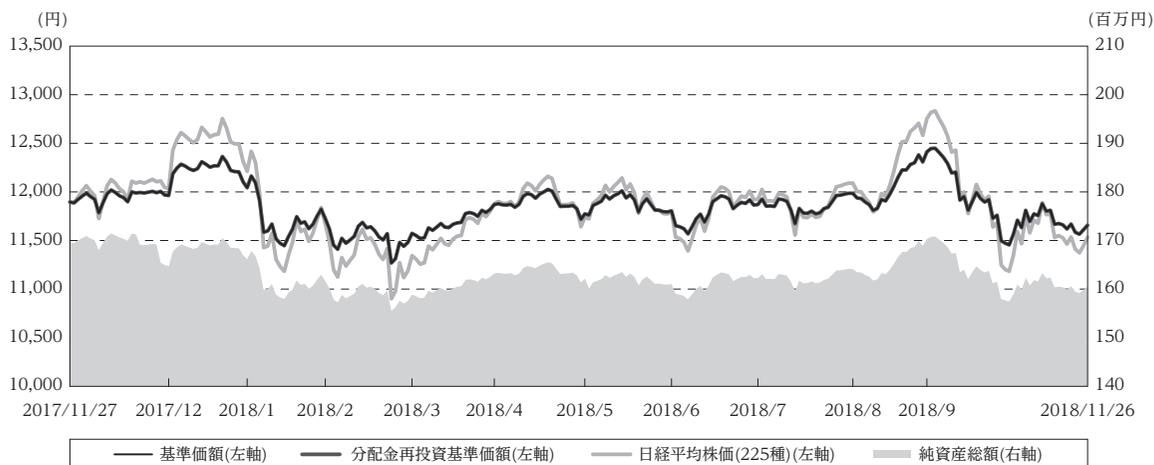
年月日	基準価額		日経平均株価(225種)		株式組入 比率	株式先物 比率	債券 組入比率
		騰落率	(参考指数)	騰落率			
(期首)	円	%	円	%	%	%	%
2017年11月27日	11,894	-	22,495.99	-	56.3	1.4	29.6
11月末	11,958	0.5	22,724.96	1.0	56.7	1.4	29.4
12月末	11,963	0.6	22,764.94	1.2	56.3	1.4	30.5
2018年1月末	12,042	1.2	23,098.29	2.7	57.0	1.4	30.2
2月末	11,725	△1.4	22,068.24	△1.9	56.2	1.4	31.0
3月末	11,572	△2.7	21,454.30	△4.6	55.3	1.4	31.6
4月末	11,870	△0.2	22,467.87	△0.1	56.6	1.5	30.7
5月末	11,774	△1.0	22,201.82	△1.3	57.2	0.7	30.9
6月末	11,804	△0.8	22,304.51	△0.9	57.8	0.7	31.1
7月末	11,869	△0.2	22,553.72	0.3	58.4	0.8	30.9
8月末	11,985	0.8	22,865.15	1.6	57.9	1.5	30.5
9月末	12,411	4.3	24,120.04	7.2	59.9	0.8	29.4
10月末	11,709	△1.6	21,920.46	△2.6	57.2	1.5	31.1
(期末)							
2018年11月26日	11,659	△2.0	21,812.00	△3.0	57.3	0.8	31.2

(注)期末基準価額は1万円当たり分配金(税引前)込み、騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2017年11月28日～2018年11月26日)



期 首：11,894円
 期 末：11,654円(既払分配金(税引前)：5円)
 騰落率：△2.0%(分配金再投資ベース)

(注)分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注)参考指数は、日経平均株価（225種）です。

(注)分配金再投資基準価額および参考指数は、期首（2017年11月27日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注)上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主な投資対象である「ミリオン・インデックス マザーファンド」における主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

(主なプラス要因)

- ・日経平均株価（225種）が配当金を含まない株価指数であるのに対し、「ミリオン・インデックス マザーファンド」には組入銘柄の配当金が計上されたことがプラス要因となりました。
- ・2018年8月に「ミリオン・インデックス マザーファンド」において、受託銀行を通じて提訴していたオリンパス株式会社への損害賠償請求訴訟について和解が成立し、和解金を受け入れたことがプラス要因となりました。

(主なマイナス要因)

- ・「ミリオン・インデックス マザーファンド」においては、投資資金の増減および日経平均株価（225種）採用銘柄入れ替え時などに発生する株式や日経平均株価先物の売買コストなどがマイナス要因となりました。

また、当ファンドにおいては、組み入れた債券からの利息収入がプラス要因となる一方、信託報酬などのコストがマイナス要因となりました。

投資環境

(2017年11月28日～2018年11月26日)

国内株式市場は、世界的な景気拡大や日本企業の好業績を受けて、2018年1月にかけて上昇しました。しかし、米国の利上げペースの加速懸念や通商政策に対する警戒感などを背景に、3月下旬にかけて下落しました。その後は北朝鮮情勢に対する不安の後退や国内企業の業績拡大が好感される一方で、米中貿易摩擦による先行き不透明感などが交錯し、9月上旬まで一進一退の展開となりました。9月中旬からは米中貿易摩擦の短期的な悪材料出尽くし感により、国内株式市場は上昇する場面がありました。10月の米国長期金利の上昇をきっかけに世界的な株安となり、大幅に下落しました。

短期金融市場は、1年国債利回りが小幅上昇しました。日銀が残存期間1年以下の国債の買入れ額を減額したことや金融政策の変更に対する警戒感などを背景に、期初から2018年8月初旬にかけて、1年国債利回りは緩やかに上昇しました。しかしその後は、金融緩和政策の更なる長期化が見込まれることとなったことから、1年国債利回りは低下に向いました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年11月28日～2018年11月26日)

「ミリオン・インデックス マザーファンド」受益証券の組入比率は、期を通じて概ね50%台後半で推移させました。また、公社債への投資につきましては、償還までの期間が比較的短く信用力の高い債券を組み入れ、安定収益の確保に努めました。公社債組入比率は、期を通じて概ね30%を保ちました。

「ミリオン・インデックス マザーファンド」の運用につきましては、運用の基本方針に則って日経平均株価（225種）に連動する投資成果を目標として運用を行いました。具体的には、日経平均株価（225種）採用銘柄から財務リスクなどを考慮した一部の銘柄を除外してポートフォリオを構築し、運用を行いました。また資金動向に柔軟に対応し、かつ株式組入比率を高水準に維持するため、日経平均株価先物を一部組み入れ、運用しました。追加設定・一部解約などの投資資金の増減に対しては、岡三A S Mモデルに従う組入銘柄の調整売買や日経平均株価先物の売買等で対応しました。また、先物を含む株式組入比率は、期を通じて100%に近い高水準を維持しました。

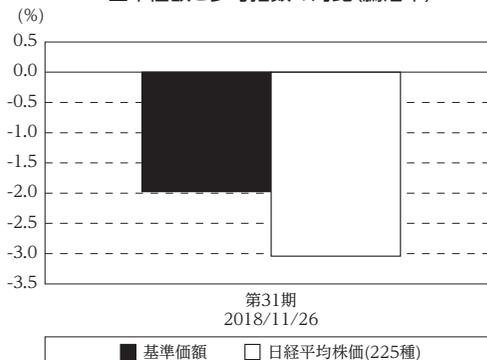
当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年11月28日～2018年11月26日)

分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数である日経平均株価（225種）の騰落率を1.0%上回りました。

当ファンドは、「ミリオン・インデックス マザーファンド」への投資と公社債等への投資を組み合わせ合わせた運用を行っております。従いまして、基準価額の変動は、日経平均株価（225種）の動きに対して、上昇時および下落時のいずれにおいても、連動の度合いは小さくなっております。

基準価額と参考指数の対比(騰落率)



(注)基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。
(注)参考指数は、日経平均株価（225種）です。

分配金

(2017年11月28日～2018年11月26日)

当期の分配は、1万口当たり5円（税引前）とさせていただきます。分配金は累積投資契約に基づき、税金を差し引いた後、全額再投資いたしました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項 目	第31期
	2017年11月28日～2018年11月26日
当期分配金	5
（対基準価額比率）	0.043%
当期の収益	—
当期の収益以外	5
翌期繰越分配対象額	5,066

(注)対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注)当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

<ミリオン（従業員積立投資プラン）ボンドミックスポートフォリオ>

運用の基本方針に則り、主要な投資対象である「ミリオン・インデックス マザーファンド」受益証券の組入比率を50%～60%程度の水準に維持することにより売買益の獲得を図る一方、20%～40%程度を公社債等へ直接投資し、安定収益の確保に努めてまいります。

○ミリオン・インデックス マザーファンド

運用の基本方針に則り、先物を含む株式組入比率を高位に保ち、日経平均株価（225種）と連動する投資成果を目指して運用してまいります。

○1万口当たりの費用明細

(2017年11月28日～2018年11月26日)

項 目	当期		項目の概要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	198	1.669	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(47)	(0.399)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(141)	(1.185)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(10)	(0.086)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	1	0.007	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均 受益権口数
(株 式)	(1)	(0.006)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に 支払う手数料
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(0)	(0.001)	
(c) そ の 他 費 用	2	0.018	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口 数
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費 用
(そ の 他 1)	(1)	(0.012)	その他1は、オリンパス（株）損害賠償請求訴訟に係る費 用
(そ の 他 2)	(0)	(0.001)	その他2は、金銭信託支払手数料
合 計	201	1.694	
期中の平均基準価額は、11,890円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
 (注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
 (注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。
 (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2017年11月28日～2018年11月26日)

○売買及び取引の状況とは、ファンドが購入・売却した有価証券の数量および金額です。

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ミリオン・インデックス マザーファンド	千口	千円	千口	千円
	－	－	2,906	4,000

(注) 単位未満は切捨て。

○株式売買比率

(2017年11月28日～2018年11月26日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
	ミリオン・インデックス マザーファンド
(a) 期中の株式売買金額	121,364 千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	1,750,431 千円
(c) 売買高比率(a)/(b)	0.06

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2017年11月28日～2018年11月26日)

利害関係人との取引状況

<ミリオン（従業員積立投資プラン） ボンドミックスポートフォリオ>

該当事項はございません。

<ミリオン・インデックス マザーファンド>

区分	買付額等 A	うち利害関係人との取引状況 B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人との取引状況 D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 3	百万円 -	% -	百万円 118	百万円 23	% 19.5

平均保有割合 5.4%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項目	当期
売買委託手数料総額(A)	10 千円
うち利害関係人への支払額(B)	2 千円
(B)/(A)	19.0 %

(注) 売買委託手数料総額は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三にいた証券です。

○組入資産の明細

(2018年11月26日現在)

国内公社債

(A)国内（邦貨建）公社債 種類別開示

区分	当期末						
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下 組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	50,000	50,011	31.2	—	—	—	31.2
合計	50,000	50,011	31.2	—	—	—	31.2

(注)組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注)額面・評価額の単位未満は切捨て。

(注)評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B)国内（邦貨建）公社債 銘柄別開示

銘柄	当期末			
	利率	額面金額	評価額	償還年月日
国債証券	%	千円	千円	
第116回 利付国債（5年）	0.2	50,000	50,011	2018/12/20
合計		50,000	50,011	

(注)額面・評価額の単位未満は切捨て。

親投資信託残高

銘柄	期首(前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
	千口	千口	千円
ミリオン・インデックス マザーファンド	73,408	70,501	94,753

(注)口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2018年11月26日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
	千円	%
公社債	50,011	30.9
ミリオン・インデックス マザーファンド	94,753	58.5
コール・ローン等、その他	17,158	10.6
投資信託財産総額	161,922	100.0

(注)評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2018年11月26日現在）

項目	当期末
	円
(A) 資産	161,922,741
コール・ローン等	17,113,778
公社債（評価額）	50,011,797
ミリオン・インデックス マザーファンド（評価額）	94,753,759
未収利息	43,407
(B) 負債	1,439,198
未払収益分配金	68,853
未払信託報酬	1,365,929
未払利息	37
その他未払費用	4,379
(C) 純資産総額（A－B）	160,483,543
元本	137,707,438
次期繰越損益金	22,776,105
(D) 受益権総口数	137,707,438口
1万口当たり基準価額（C／D）	11,654円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1.1654円です。
 (注) 当ファンドの期首元本額は142,536,752円、期中追加設定元本額は3,477,609円、期中一部解約元本額は8,306,923円です。

○損益の状況（2017年11月28日～2018年11月26日）

項目	当期
	円
(A) 配当等収益	89,651
受取利息	99,804
支払利息	△ 10,153
(B) 有価証券売買損益	△ 573,435
売買益	132,889
売買損	△ 706,324
(C) 信託報酬等	△ 2,735,691
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	△ 3,219,475
(E) 前期繰越損益金	35,197,261
(F) 追加信託差損益金	△ 9,132,828
（配当等相当額）	（ 34,636,606）
（売買損益相当額）	（△43,769,434）
(G) 計（D＋E＋F）	22,844,958
(H) 収益分配金	△ 68,853
次期繰越損益金（G＋H）	22,776,105
追加信託差損益金	△ 9,132,828
（配当等相当額）	（ 34,636,606）
（売買損益相当額）	（△43,769,434）
分配準備積立金	35,128,408
繰越損益金	△ 3,219,475

(注) 損益の状況の中で**(B) 有価証券売買損益**は、期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) 損益の状況の中で**(C) 信託報酬等**には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) 損益の状況の中で**(F) 追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) 収益分配金

決算期	第31期
(a) 配当等収益（費用控除後）	0円
(b) 有価証券等損益額（費用控除後、繰越欠損金補填後）	0円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	34,636,606円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	35,197,261円
分配対象収益（a＋b＋c＋d）	69,833,867円
分配対象収益（1万口当たり）	5,071円
分配金額	68,853円
分配金額（1万口当たり）	5円

用語解説

○**資産、負債、元本及び基準価額の状況**は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
資産	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等(評価額)	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
負債	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
純資産総額(資産－負債)	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額（翌期に繰り越す損益金の合計額）です。
受益権総口数	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

用語解説

○**損益の状況**は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
配当等収益	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
有価証券売買損益	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
信託報酬等	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それらに掛かる消費税等相当額です。
当期損益金	当期における収支合計です。
前期繰越損益金	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
追加信託差損益金	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
計	収益分配前の期中の収支の総合計です。
収益分配金	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
次期繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
(配当等相当額)	配当等に相当する額です。
(売買損益相当額)	売買損益に相当する額です。
分配準備積立金	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
繰越損益金	翌期に繰り越す損益金の額です。

○分配金のお知らせ

1 万口当たり分配金(税引前)	5円
-----------------	----

(注)分配金は、税金を差し引いた後金額再投資いたしました。

〈お知らせ〉

該当事項はございません。

〈当ファンドの参考指数について〉

「日経平均株価」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」自体および「日経平均株価」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。

「日経」および「日経平均株価」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。

ファンドは、投資信託委託会社などの責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用およびファンドの受益権の取引に関して、一切責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」の構成銘柄、計算方法、その他「日経平均株価」の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

マザーファンドの運用報告書につきましては、ベビーフンドの運用報告書と作成対象期間が異なる場合には、データ・コメント等に不一致が生じる場合がありますのでご了承ください。

ミリオン・インデックス マザーファンド

第31期 運用状況のご報告

決算日：2018年11月26日

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	わが国の金融商品取引所上場株式のうち日経平均株価（225種）に採用された銘柄を投資対象とし、わが国の株式市場の動きと長期成長をとらえることを目標に、日経平均株価（225種）をモデルとして運用を行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場株式のうち日経平均株価（225種）に採用された銘柄を投資対象とします。
投資制限	株式への投資には、制限を設けません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		日経平均株価(225種) (ベンチマーク)		株式組入 比率	株式先物 比率	純資産 総額
	円	%	円	%			
27期(2014年11月26日)	992	13.5	17,383.58	12.0	86.3	12.9	2,027
28期(2015年11月26日)	1,155	16.4	19,944.41	14.7	93.0	6.1	1,959
29期(2016年11月28日)	1,083	△ 6.2	18,356.89	△ 8.0	83.5	16.0	1,715
30期(2017年11月27日)	1,351	24.7	22,495.99	22.5	96.2	2.4	1,857
31期(2018年11月26日)	1,344	△ 0.5	21,812.00	△ 3.0	97.0	1.3	1,679

(注) 基準価額は1千口当たり。

(注) 株式先物比率 = 買建比率 - 売建比率。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		日経平均株価(225種) (ベンチマーク)		株式組入 比率	株式先物 比率
	円	騰落率 %	円	騰落率 %		
(期首) 2017年11月27日	1,351	—	22,495.99	—	96.2	2.4
11月末	1,364	1.0	22,724.96	1.0	96.5	2.4
12月末	1,368	1.3	22,764.94	1.2	96.2	2.4
2018年1月末	1,387	2.7	23,098.29	2.7	96.9	2.5
2月末	1,328	△1.7	22,068.24	△1.9	97.0	2.5
3月末	1,301	△3.7	21,454.30	△4.6	95.8	2.5
4月末	1,362	0.8	22,467.87	△0.1	96.2	2.5
5月末	1,347	△0.3	22,201.82	△1.3	97.6	1.2
6月末	1,356	0.4	22,304.51	△0.9	97.3	1.3
7月末	1,372	1.6	22,553.72	0.3	98.1	1.3
8月末	1,398	3.5	22,865.15	1.6	96.4	2.5
9月末	1,484	9.8	24,120.04	7.2	97.5	1.3
10月末	1,351	0.0	21,920.46	△2.6	96.7	2.6
(期末) 2018年11月26日	1,344	△0.5	21,812.00	△3.0	97.0	1.3

(注)騰落率は期首比。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2017年11月28日～2018年11月26日)



(注)ベンチマークは、日経平均株価（225種）です。

(注)ベンチマークは、期首（2017年11月27日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおけるベンチマーク（日経平均株価（225種））に対する主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

（主なプラス要因）

- ・日経平均株価（225種）が配当金を含まない株価指数であるのに対し、当ファンドには組入銘柄の配当金が計上されたことがプラス要因となりました。
- ・2018年8月に当ファンドにおいて、受託銀行を通じて提訴していたオリンパス株式会社への損害賠償請求訴訟について和解が成立し、和解金を受け入れたことがプラス要因となりました。

（主なマイナス要因）

- ・投資資金の増減および日経平均株価（225種）採用銘柄入れ替え時などに発生する株式や日経平均株価先物の売買コストなどがマイナス要因となりました。

投資環境

(2017年11月28日～2018年11月26日)

国内株式市場は、世界的な景気拡大や日本企業の好業績を受けて、2018年1月にかけて上昇しました。しかし、米国の利上げペースの加速懸念や通商政策に対する警戒感などを背景に、3月下旬にかけて下落しました。その後は北朝鮮情勢に対する不安の後退や国内企業の業績拡大が好感される一方で、米中貿易摩擦による先行き不透明感などが交錯し、9月上旬まで一進一退の展開となりました。9月中旬からは米中貿易摩擦の短期的な悪材料出尽くし感により、国内株式市場は上昇する場面がありました。10月の米国長期金利の上昇をきっかけに世界的な株安となり、大幅に下落しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年11月28日～2018年11月26日)

当ファンドの先物を含む株式組入比率は、期を通じて100%に近い高水準を維持しました。

当期につきましては、運用の基本方針に則って日経平均株価（225種）に連動する投資成果を目標として運用を行いました。具体的には、日経平均株価（225種）採用銘柄から財務リスクなどを考慮した一部の銘柄を除外してポートフォリオを構築し、運用を行いました。また資金動向に柔軟に対応し、かつ株式組入比率を高水準に維持するため、日経平均株価先物を一部組み入れ、運用しました。追加設定・一部解約などの投資資金の増減に対しては、岡三A S Mモデルに従う組入銘柄の調整売買や日経平均株価先物の売買等に対応しました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年11月28日～2018年11月26日)

当ファンドの基準価額の騰落率は、ベンチマークである日経平均株価（225種）の騰落率を2.5%上回りました。

詳細につきましては前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

今後の運用方針

運用の基本方針に則り、先物を含む株式組入比率を高位に保ち、日経平均株価（225種）と連動する投資成果を目指して運用してまいります。

○1千口当たりの費用明細

(2017年11月28日～2018年11月26日)

項 目	当期		項目の概要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式) (先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	0 (0) (0)	0.011 (0.010) (0.001)	(a) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均 受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に 支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 (そ の 他 1) (そ の 他 2)	0 (0) (0)	0.020 (0.019) (0.000)	(b) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口 数 その他1は、オリンパス(株)損害賠償請求訴訟に係る費 用 その他2は、金銭信託支払手数料
合 計	0	0.031	
期中の平均基準価額は、1,368円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1千口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2017年11月28日～2018年11月26日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 0.6 (△ 14)	千円 3,239 (-)	千株 65	千円 118,124

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。ただし、単位未満の場合は小数で記載。

(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

先物取引の種類別取引状況

種 類 別		買 建		売 建	
		新規買付額	決済額	新規売付額	決済額
国 内	株式先物取引	百万円 200	百万円 222	百万円 -	百万円 -

(注) 単位未満は切捨て。

○株式売買比率

(2017年11月28日～2018年11月26日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当期
(a) 期中の株式売買金額	121,364 千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	1,750,431 千円
(c) 売買高比率(a)/(b)	0.06

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2017年11月28日～2018年11月26日)

利害関係人との取引状況

区分	買付額等	うち利害関係人との取引状況 B	$\frac{B}{A}$	売付額等	うち利害関係人との取引状況 D	$\frac{D}{C}$
	A			C		
株式	百万円 3	百万円 -	% -	百万円 118	百万円 23	% 19.5

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項目	当期
売買委託手数料総額(A)	198 千円
うち利害関係人への支払額(B)	37 千円
(B) / (A)	19.2 %

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三にいがた証券です。

○組入資産の明細

(2018年11月26日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評価額
	千株	千株	千円
水産・農林業 (0.1%)			
日本水産	2	2	1,440
マルハニチロ	0.2	0.2	856
鉱業 (0.1%)			
国際石油開発帝石	0.8	0.8	926
建設業 (2.2%)			
コムシスホールディングス	3	3	8,523
大成建設	0.6	0.4	2,032
大林組	3	2	2,284
清水建設	3	2	1,906
長谷工コーポレーション	0.4	0.4	538
鹿島建設	3	1	1,558
大和ハウス工業	3	3	10,158
積水ハウス	3	2	3,403
日揮	3	3	4,986
千代田化工建設	2	2	636
食料品 (4.5%)			
日清製粉グループ本社	3	2	4,650
明治ホールディングス	0.6	0.4	3,620
日本ハム	3	1	4,250
サッポロホールディングス	0.4	0.4	1,028
アサヒグループホールディングス	3	3	14,529
キリンホールディングス	3	3	8,179
宝ホールディングス	3	2	2,794
キッコーマン	3	3	18,480
味の素	3	2	3,818
ニチレイ	1.5	1	3,220
日本たばこ産業	3	3	8,457
繊維製品 (0.2%)			
東洋紡	0.2	0.2	318
ユニチカ	0.2	0.2	106
帝人	0.4	0.4	774
東レ	3	2	1,817
パルプ・紙 (0.1%)			
王子ホールディングス	2	2	1,366
日本製紙	0.2	0.2	416

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評価額
	千株	千株	千円
化学 (8.8%)			
クラレ	3	2	3,536
旭化成	3	2	2,399
昭和電工	0.2	0.2	883
住友化学	3	2	1,174
日産化学	3	3	18,000
東ソー	1.5	1	1,614
トクヤマ	0.4	0.4	1,123
デンカ	0.4	0.4	1,406
信越化学工業	3	3	29,280
三井化学	0.4	0.4	1,149
三菱ケミカルホールディングス	1	1	927
宇部興産	0.2	0.2	519
日本化薬	3	2	2,892
花王	3	3	24,357
富士フイルムホールディングス	3	3	13,140
資生堂	3	3	22,389
日東電工	3	3	18,207
医薬品 (9.2%)			
協和発酵キリン	3	2	4,522
武田薬品工業	3	3	12,864
アステラス製薬	15	15	25,357
大日本住友製薬	3	2	5,732
塩野義製薬	3	3	23,007
中外製薬	3	3	21,630
エーザイ	3	3	29,334
第一三共	3	3	12,051
大塚ホールディングス	3	3	15,534
石油・石炭製品 (0.3%)			
昭和シェル石油	3	2	3,340
J X T Gホールディングス	2	2	1,324
ゴム製品 (1.0%)			
横浜ゴム	1.5	1	2,376
ブリヂストン	3	3	13,569
ガラス・土石製品 (1.0%)			
A G C	0.6	0.4	1,526
日本板硝子	0.2	0.2	188

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評価額
	千株	千株	千円
日本電気硝子	1	0.6	1,792
住友大阪セメント	2	0.2	1,020
太平洋セメント	0.2	0.2	769
東海カーボン	3	2	3,216
TOTO	1.5	1	4,365
日本碍子	3	2	3,298
鉄鋼 (0.1%)			
新日鐵住金	0.2	0.2	416
神戸製鋼所	0.2	0.2	180
ジェイ エフ イー ホールディングス	0.2	0.2	407
日新製鋼	0.2	0.2	294
大太平洋金属	—	0.2	633
非鉄金属 (0.7%)			
日本軽金属ホールディングス	2	2	466
三井金属鉱業	0.2	0.2	495
東邦亜鉛	0.2	0.2	765
三菱マテリアル	0.2	0.2	602
住友金属鉱山	1.5	1	3,185
DOWA ホールディングス	0.6	0.4	1,446
古河機械金属	0.2	—	—
古河電気工業	0.2	0.2	634
住友電気工業	3	2	3,124
フジクラ	3	2	930
金属製品 (0.3%)			
SUMCO	0.2	0.2	323
東洋製罐グループホールディングス	3	2	5,142
機械 (4.5%)			
日本製鋼所	0.4	0.4	820
オークマ	0.6	0.4	2,156
アマダホールディングス	3	2	2,380
小松製作所	3	3	8,709
住友重機械工業	0.6	0.4	1,474
日立建機	3	3	9,180
クボタ	3	2	3,737
荏原製作所	0.6	0.4	1,112
ダイキン工業	3	3	35,865
日本精工	3	2	2,116

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評価額
	千株	千株	千円
NTN	2	2	760
ジェイテクト	3	2	2,818
日立造船	0.4	0.4	153
三菱重工業	0.2	0.2	861
I H I	0.2	0.2	694
電気機器 (16.8%)			
日清紡ホールディングス	3	2	2,020
コニカミノルタ	3	2	1,984
ミネベアミツミ	3	2	3,444
日立製作所	3	0.4	1,293
三菱電機	3	2	2,865
富士電機	3	0.4	1,336
安川電機	3	3	9,870
ジーエス・ユアサ コーポレーション	2	0.4	1,028
日本電気	0.2	0.2	679
富士通	3	0.2	1,379
沖電気工業	0.2	0.2	304
セイコーエプソン	6	6	11,106
パナソニック	3	2	2,228
ソニー	3	3	17,097
TDK	3	3	26,520
アルプス電気	3	3	7,677
パイオニア	2	—	—
横河電機	3	2	3,970
アドバンテスト	6	6	13,770
カシオ計算機	3	2	3,122
ファナック	3	3	57,345
京セラ	6	6	35,634
太陽誘電	3	2	4,060
S C R E E Nホールディングス	0.6	0.4	2,264
キヤノン	4.5	4.5	14,386
リコー	3	2	2,214
東京エレクトロン	3	3	46,470
輸送用機器 (5.7%)			
デンソー	3	3	15,408
三井E&Sホールディングス	0.2	0.2	229
川崎重工業	0.2	0.2	528

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評価額
	千株	千株	千円
日産自動車	3	2	1,956
いすゞ自動車	1.5	1	1,599
トヨタ自動車	3	3	20,415
日野自動車	3	2	2,212
三菱自動車工業	0.2	0.2	139
マツダ	0.4	0.4	479
本田技研工業	6	6	18,948
スズキ	3	3	16,329
S U B A R U	3	3	7,860
ヤマハ発動機	3	3	6,840
精密機器 (3.2%)			
テルモ	6	6	37,914
ニコン	3	2	3,634
オリンパス	3	3	9,840
シチズン時計	3	2	1,176
その他製品 (1.2%)			
凸版印刷	3	1	1,830
大日本印刷	1.5	1	2,597
ヤマハ	3	3	14,595
電気・ガス業 (0.2%)			
東京電力ホールディングス	0.2	0.2	132
中部電力	0.2	0.2	345
関西電力	0.2	0.2	353
東京瓦斯	0.4	0.4	1,170
大阪瓦斯	0.4	0.4	852
陸運業 (1.9%)			
東武鉄道	0.4	0.4	1,300
東京急行電鉄	1.5	1	1,942
小田急電鉄	1.5	1	2,458
京王電鉄	0.6	0.4	2,484
京成電鉄	1.5	1	3,600
東日本旅客鉄道	0.3	0.2	2,064
西日本旅客鉄道	0.2	0.2	1,605
東海旅客鉄道	0.3	0.2	4,566
日本通運	0.2	0.2	1,426
ヤマトホールディングス	3	3	8,968

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評価額
	千株	千株	千円
海運業 (0.1%)			
日本郵船	0.2	0.2	375
商船三井	0.2	0.2	524
川崎汽船	0.2	0.2	313
空運業 (0.0%)			
A N Aホールディングス	0.2	0.2	804
倉庫・運輸関連業 (0.2%)			
三菱倉庫	1.5	1	2,788
情報・通信業 (11.2%)			
ヤフー	0.8	0.8	253
トレンドマイクロ	3	3	19,050
スカパーJ S A Tホールディングス	0.2	0.2	111
日本電信電話	0.6	0.4	1,880
K D D I	18	18	46,737
N T T ドコモ	0.2	0.2	516
東宝	0.2	0.2	749
エヌ・ティ・ティ・データ	15	15	19,065
コナミホールディングス	3	3	15,210
ソフトバンクグループ	9	9	79,371
卸売業 (2.0%)			
双日	0.2	0.2	78
伊藤忠商事	3	2	4,059
丸紅	2	2	1,704
豊田通商	3	3	11,400
三井物産	3	2	3,494
住友商事	3	2	3,439
三菱商事	3	3	9,072
小売業 (16.1%)			
J・フロント リテイリング	1.5	1	1,549
三越伊勢丹ホールディングス	3	2	2,582
セブン&アイ・ホールディングス	3	3	15,036
ユニ・ファミリーマートホールディングス	3	3	53,340
高島屋	3	1	1,682
丸井グループ	3	3	7,260
イオン	3	3	8,143
ファーストリテイリング	3	3	172,200

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評価額
	千株	千株	千株	千円
銀行業 (0.6%)				
コンコルディア・フィナンシャルグループ	2	2		1,010
新生銀行	0.2	0.2		317
あおぞら銀行	0.2	0.2		744
三菱UFJフィナンシャル・グループ	2	2		1,240
りそなホールディングス	0.2	0.2		115
三井住友トラスト・ホールディングス	0.2	0.2		894
三井住友フィナンシャルグループ	0.2	0.2		826
千葉銀行	3	2		1,428
ふくおかフィナンシャルグループ	2	0.4		1,023
静岡銀行	3	2		1,980
みずほフィナンシャルグループ	2	2		373
証券・商品先物取引業 (0.3%)				
大和証券グループ本社	2	2		1,248
野村ホールディングス	2	2		1,023
松井証券	3	2		2,480
保険業 (0.9%)				
SOMPOホールディングス	0.8	0.5		2,128
MS&ADインシュアランスグループホールディングス	0.9	0.6		2,025
ソニーフィナンシャルホールディングス	0.4	0.4		935
第一生命ホールディングス	0.2	0.2		391
東京海上ホールディングス	1.5	1.5		8,239
T&Dホールディングス	0.4	0.4		651

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評価額
	千株	千株	千株	千円
その他金融業 (0.2%)				
クレディセゾン	3	2		2,916
不動産業 (1.6%)				
東急不動産ホールディングス	2	2		1,244
三井不動産	3	3		8,227
三菱地所	3	2		3,575
東京建物	1.5	1		1,208
住友不動産	3	3		12,510
サービス業 (4.7%)				
ディー・エヌ・エー	0.9	0.6		1,270
電通	3	3		14,835
サイバーエージェント	—	0.4		1,902
楽天	3	2		1,854
リクルートホールディングス	9	9		25,537
日本郵政	3	2		2,736
東京ドーム	1	1		1,022
セコム	3	3		28,035
合 計	株 数 ・ 金 額	495	416	1,629,370
計	銘柄数〈比率〉	224	224	〈97.0%〉

(注)銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。
(注)合計欄の〈 〉内は、純資産総額に対する評価額の比率。
(注)評価額の単位未満は切捨て。

先物取引の銘柄別期末残高

銘柄別			当 期 末	
			買 建 額	売 建 額
国 内	株式先物取引	日経225	百万円	百万円
			21	—

(注)単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2018年11月26日現在)

項 目	当 期 末	
	評価額	比 率
	千円	%
株式	1,629,370	96.9
コール・ローン等、その他	52,246	3.1
投資信託財産総額	1,681,616	100.0

(注)評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年11月26日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,681,616,168
コール・ローン等	37,815,568
株式(評価額)	1,629,370,680
未収配当金	11,059,920
差入委託証拠金	3,370,000
(B) 負債	2,461,041
未払金	2,460,864
未払利息	82
その他未払費用	95
(C) 純資産総額(A - B)	1,679,155,127
元本	1,249,157,638
次期繰越損益金	429,997,489
(D) 受益権総口数	1,249,157,638口
1千口当たり基準価額(C/D)	1,344円

(注)計算期間末における1口当たりの純資産額は、1,344円です。

(注)当ファンドの期首元本額は1,375,296,176円、期中追加設定元本額は0円、期中一部解約元本額は126,138,538円です。

(注)当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、以下の通りです。

ミリオン (従業員積立投資プラン) インデックスポートフォリオ
1,178,656,329円

ミリオン (従業員積立投資プラン) ボンドミックスポートフォリオ
70,501,309円

○損益の状況

(2017年11月28日～2018年11月26日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	40,902,639
受取配当金	34,107,858
受取利息	227
その他収益金	6,822,138
支払利息	△ 27,584
(B) 有価証券売買損益	△ 42,621,194
売買益	180,843,274
売買損	△223,464,468
(C) 先物取引等取引損益	△ 1,160,416
取引益	4,260,088
取引損	△ 5,420,504
(D) その他費用等	△ 353,686
(E) 当期損益金(A + B + C + D)	△ 3,232,657
(F) 前期繰越損益金	482,435,908
(G) 解約差損益金	△ 49,205,762
(H) 計(E + F + G)	429,997,489
次期繰越損益金(H)	429,997,489

(注)損益の状況の中で**(B) 有価証券売買損益**および**(C) 先物取引等取引損益**は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注)損益の状況の中で**(G) 解約差損益金**とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

〈お知らせ〉

該当事項はございません。

〈当ファンドのベンチマークについて〉

「日経平均株価」は、株式会社日本経済新聞社によって独自に開発された手法によって、算出される著作物であり、株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」自体および「日経平均株価」を算定する手法に対して、著作権その他一切の知的財産権を有しています。

「日経」および「日経平均株価」を示す標章に関する商標権その他の知的財産権は、全て株式会社日本経済新聞社に帰属しています。

ファンドは、投資信託委託会社などの責任のもとで運用されるものであり、株式会社日本経済新聞社は、その運用およびファンドの受益権の取引に関して、一切責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」を継続的に公表する義務を負うものではなく、公表の誤謬、遅延または中断に関して、責任を負いません。

株式会社日本経済新聞社は、「日経平均株価」の構成銘柄、計算方法、その他「日経平均株価」の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。